第218号

昭和64年1月1日

広報 かでな

編集と発行
発行 嘉手納町役場
編集 企画渉外課広報係
〒904-02
嘉手納町字嘉手納588番地
☎ 09895(6)－1111
(内線331)
印刷：光文堂印刷株式会社

夢をのせた 手作りたこを 空高く揚げる 第二保育所の園児ら

第二保育所の園児らが、画用紙で作った、各自の手作りたこを、兼久海浜公園内のソフトボール場で、空高く揚げ、全員が一足早い正月気分を味わっていた。

12月1日現在の人口

	東区	上区	中区	北区	南区	西区	西浜区	計
世帯数	716	421	402	567	569	597	720	3,992
男子	1,360	754	701	900	838	1,038	1,494	7,085
女子	1,308	781	693	960	908	1,074	1,450	7,174
計	2,668	1,535	1,394	1,860	1,746	2,112	2,944	14,259

年頭のあいさつ

嘉手納町長　吉浜朝永

謹んで新春のお慶びを申し上げます。町民の皆々様にはます〳〵御清栄にてよいお年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年中は町政のためになにかと御教示、御指導を賜り身にしみて感謝申し上げております。おかげ様にて大過なく無事越年させていただきました。いま年頭に当り昭和六十三年を顧みますと相変らず、急激な円高ドル安による影響、更には米国を始めとする海外からの農産物の市場解放を求める圧力等が頂点に達し我が国の社会経済、農業をくりまく環境は極めて厳しい状況の下で推移しました。しかしながら国家予算におきましては予想を上廻る国税の増収やNTT株の売却等によって数年続いたマイナス・シーリングの予算編成方針が緩和され、公共工事関連の国庫支出金の大幅な増額等によって投資的経費が大きく伸びたことや、個人消費の増大、民間投資の増加など内需を中心とした経済政策に基き沖縄関係予算も要求どおりの満額確保ができた年でありました。かかる社会経済環境のなかで我が嘉手納町は昭和五十四年度を初年度として策定したまちづくりの指針である総合計画の最終年度に当る最も重要で節目の年でもありました。十年間にわたる事業の成果の総点検と残された課題の達成にむけ職員の英知を結集して取り組んで来た年でありました。町議会議員の皆様を始め町民皆様方が、まちづくりによせる、その情熱と関心度に支えられ学校教育施設や都市公園上下水道施設を始め、都市計画道路、生活道路の整備更には戦後処理の一環として永年の懸案事項でありました町道潰地（その他道）の買上げ、また町民福祉の充実、向上のためその中核となる総合福祉センターの完成、嘉手納葬斎場、屋良地区児童館の建築着手等、社会資本の整備が一段と進み、他府県にくらべ立遅れていたハード面の整備については一定の成果をみることができました。これもひとえに議員の皆様、並びに町民皆様方のご協力の賜ものであり心から感謝申し上げる次第であります。社会資本の整備と共に昨年は特にソフト面の政策課題として人材育成事業の充実、教育文化の振興に重点をおき、その具現にむけて取り組んでまいりました。

二十一世紀を担う青少年の健全育成と今後ますます複雑多様化する情報化、国際化社会に対応し得る心身共に健全な青少年の育成は当面する行政に求められている重要施策と位置づけ、九月の町議会定例会に嘉手納町人材育成会設置条例を提案いたし議会の議決もいただきました。更に十二月の町議会定例会におきましては人材育成基金設置条例も提案いたしまして全会一致で可決されました。かかる一連の手続きもすべて整い本格的な人材育成事業がスタートいたしました。当然のことではありますが人材育成会の果す役割りと重要性を深く認識し町民皆様方のご期待にそって管理運営の面では細心の注意をもって本会の目的達成に最善をつくす所存であります。

また近年における社会構造の変化とあいまって余暇時代の到来は社会教育体育の面にも多種多様な問題が提起され、特に生涯学習に対する関心度のたかまり更には健康、体力作りにむけるスポーツ活動の活発化、加えて人々の価値観の多様化も進み物的豊かさの追求から物と心の調和、精神的なゆとりうるおいが求められ文化活動の振興を求める町民の要請は日々高まりを見せております。かかる町民ニーズに積極的に応え昨年四月教育委員会に社会教育課を新設、多岐にわたる行政需要に対処しているところであります。また町民の皆様が久しく待望しその完成を待ちのぞんでおりました総合福祉センターも昨年暮れに建物本体については完成を見ております。現

謹しんで
新年のお慶びを
申し上げます。
昭和六十三年　元旦

町長　吉浜朝永
助役　勝連朝蒲
収入役　新垣正雄
教育長　奥島憲市
企画渉外課長　伊波昭夫
企画渉外課主幹　平良専市
総務課長　金城明
税務課長　伊佐英忠
住民課長　高嶺政助
厚生課長　池原正夫
保健衛生課長　知念政喜
建設経済課長　徳里実
都市計画課長　浜元朝輝
管理課長　真壁友宣
管理課主幹　伊波政盛
水道課長　徳里政勝
消防本部長　山口栄三郎
教育総務課長　山入端立正
社会教育課長　兼村憲信
給食センター所長　小渡一成
外職員一同

在残された外構工事と進入道路の工事が急ピッチで施行されており四月一日の供用開始を目途として諸準備を整えているところであります。供用開始のあかつきは町民福祉の殿堂として地域福祉の向上に大きく貢献できるよう社会福祉協議会や各種福祉団体の皆様と連携を密にして長年にわたり地域社会の発展にご尽力されて来られたご先輩の皆様方に感謝の念をこめて管理運営の面にも十分配慮して楽しく利用できる施設として活用してまいりたいと考えております。

さて迎えました新たな年は二十一世紀を間近かに控え、国際化情報化、高令化の進展等もあって内外の社会経済情勢も大きく変貌し地方行政を取りまく環境も地方財政の厳しさに加え多様化、増大する行政需要に対処する施策の確立が強く要請される昨今であります。かかる要請と期待に応えるため、中・長期的視点に立って町民が誇りと愛着のもてる二十一世紀につなぐまちづくりを推進する施策を積極的、総合的に展開しなければなりません。また高令化の進展等社会の変化にも十分配慮しつつ町民生活の安全の確保、基地問題の解決に取り組む姿勢を明確にした新嘉手納町総合計画の策定に広く町民皆様方のご意見を拝聴しながら本年四月一日スタートを目標に鋭意取り組んでいるところであります。昭和六十四年も相変らず厳しい内外の社会経済情勢のなかで迎えましたが新嘉手納町総合計画のなかで、わがまちの更なる発展と町民福祉の向上にむけ全職員が一丸となり最大の努力を傾注してまいる所存であります。

町民皆様方の尚一層のご指導、ご協力をお願い申し上げ昭和六十四年が町民の皆様にとりまして幸せな年でありますようにお祈り申し上げましてご挨拶といたします。

あけましておめでとうございます

昭和六十四年 元旦

嘉手納町議会議長　岩井義信

副議長　仲宗根政幸
議員　前川キヨ
〃　濱元朝義
〃　稲嶺盛貞
〃　仲本弘吉
〃　奥間太郎
〃　金城睦昌
〃　花城康次郎
〃　宮平永治
〃　田場盛文
〃　仲宗根正幸
〃　渡口真吉
〃　金城高夫
〃　津波古清榮
〃　比嘉寛一
〃　興那覇孫太郎
〃　徳元正信
〃　古謝世徳
事務局長　仲宗根朝信
外職員一同

今年は巳年

今年は巳(み)年、すなわち蛇年です。蛇は、十二支のなかの唯一の爬(は)虫類ですが、古くは恐竜、現代では亀やトカゲ、ワニなどの仲間です。

蛇と聞いただけで、嫌悪感をもよおす人もいるようですが、それは多分にあのグロテスクな姿のせいです。脚部の退化・消失してしまった細長いからだが、S字型を書くようにくねくねと動く様子は、蛇独特のものです。

あの細長いからだで、内臓はどうなっているのだろう……？

ご心配には及びません。内臓も体に合わせて細く伸びているほか、腎臓(じんぞう)など本来は左右にあるべきものが、前後に位置を占めておさまっているそうです。

蛇は、古来、恐れられ排斥される一方で、崇拝と畏敬(いけい)の対象でもありました。日本では、神のお使い、あるいは神そのものと思われていた様子が、古典や伝説、昔話に多くみられます。

例えば、池や沼の主を大蛇とみて雨ごいをする風習は全国的にあるといわれます。また、白い蛇を家の神とする信仰も各地にみられます。

ところで、蛇は集団をぬくらないといわれます。蟻(あり)などのような社会組織や集団生活の例は、まったく知られていないということです。いつも〝ひとり〟で孤独な生活をしています。そのため、異性と出会う機会がたいへん困難だということです。ちょっとさびしい話ですね。

ところで、蛇は、生きている間ずっと成長し続けます。発育にともなって、古い皮は三か月に一度定期的に脱ぎ捨てられ、新しいのと取り換えられる――脱皮です。お正月を機に今年こそは新しい試みをと、脱皮を心がけておられる方、うまくいくといいですね。

なの場

ぼくの詩・わたしの詩

もうすぐお正月

もうすぐお正月。
お正月には　コマ回し
みんなでたこあげ。
なんといっても、おとし玉。
みんながほしがる　おとし玉。
一年一度の
いっかいしかない
お正月。
それに
おもちだって
おいしいし
たべものだって、
いろいろある。
おともだちからの、
年賀状も
たのしみ。
はやくこいこいお正月。

嘉手納小学校４年
源河朝哉

楽しい園外保育　第一保育所の園児ら　町内施設を見学

第一保育所の園児らが園外保育の一環として、十二月十五日町民の家と環境美化センターを見学した。

園外保育は、子供たちの情操教育と毎月一回のおたんじょう日会を兼ねて月一回行ない、当日は、小春日和を思わせるすばらしい天候の下、子供たちもリュクサックを背おいマイクロバスに乗って町民の家へ到着。

さっそく、先生の注意をうけたあと、お友達二人一組で手をつなぎ隣の美化センターを見学した。

同センター構内で、空高くつきでた大きな煙突を見あげた子供たちは、「わあー大きいなあー」、「汽車ポッポの煙突みたい」、「ここでやきいもを焼いているのかなあー」など、大きな声が弾んでいた。

センターでは、徳里所長外職員の案内で施設を見学、初めて見る機械の大きさに子供たちも「わあー、すごいなあー」を連発、感激していた。

施設見学を終えた園児たちは、案内をしてくれたセンターのおじさんたちに、「ありがとうございます。」と元気な声でお礼をし、町民の家でおべんとうをいただきながら、おたんじょう日のお友達をみんなで祝福し、楽しい園外保育を終えた。

みん広

第二保育所で防火訓練
消防職員の機敏な指示で
園児らが保母の誘導でひなん

十一月二十六日～十二月二日までの期間、全国一斉に展開された秋の火災予防週間にちなみ、町消防本部の防火訓練が十二月二日午後、第二保育所で行なわれた。

午後二時四十分、突然、保育所の一室から煙が立ちこめ火災が発生したことを想定。

園内の火災報知機がけたたましくなりひびき、園長が保母に園児らのひなんを指示、ただちに一一九番へ連絡。

その間、0才～五才児までの園児百十二名が保母の誘導で正面玄関と非常口から、次々と外にひなんをした。

通報後、約三分で町消防本部から消防車、ポンプ車、救急車等が到着、ただちに火元へ一斉に放水が行なわれ、室内にとりのこされた職員がレスキュー隊らによって無事救出された。

防火訓練も消防職員の機敏な動作や指示により、保母による園児のひなん誘導および職員の救出などがスムーズに行なわれ、全員が見守るなか、三十分程で終了した。

「いつまでもお元気で」
町内の独居老人を激励
町社会福祉協議会

「おじいちゃん」、「おばあちゃん」いつまでもお元気で長生きして下さいと、昭和六十三年度の独り暮しのおじいちゃん、おばあちゃんを励ます会が、嘉手納町社会福祉協議会主催により、このほど中央公民館ホールで催された。

日頃、独り暮しで外に出る機会の少ない町内の独居老人を、少しでも多ぜいの仲間と話しを交すなか、心を広く社会に向けさせることを目的に、当日は、八十名余の高齢者が招待された。

励ます会は、宮平永助社協副会長の開会のことばではじまり、奥間信一会長のあいさつのあと、老人クラブ、古典音楽サークルによる幕開き、給食ボランテアの祝節につづいて来賓あいさつへと移り、勝連助役（町長代理）は「これからも、ますますお元気で嘉手納町発展のためにご指導をおねがいします」と激励。

ひきつづき町内各区婦人会による盛りだくさんの余興が舞台いっぱいに操りひろげられると、招待されたおじいちゃん、おばあちゃんも余興の一つ一つをくいいるように見られ、拍手を送るなど、仲間との久しぶりの出逢いに心をなごませていた。

また、民生児童委員がアトラクションでハメハメ大王を踊り、会場の爆笑をさそうなど、激励会も盛りあがっていた。

やったね、嘉手川育子さん 優秀賞　受賞おめでとう

去った十二月十日（日）中城村立津波小学校で行われた、沖縄県PTA連合会主催による第三十九回童話・お話大会で、屋良小学校六年生の嘉手川育子さんが優秀賞を受賞、学校をはじめ関係者らの祝福に包まれている。

初出場で優秀賞を受賞した育子さんは、賞状とメダルをおみやげに十二月十四日午前、奥間校長や宮平地区PTA会長に伴なわれて、教育委員会に奥島教育長を訪ずね、受賞の報告を行なった＝**写真**。

大会の高学年女子の部へ嘉手納地区代表として、初めて出場した育子さんは、子供芸術発表会のなかで行なったウチナーグチ芝居の「丘の一本松」で、アンマー役を演じ、その役作りのために、隣り近所のおばあちゃんから直接、ウチナーグチを学び役作りにはげむなど、おばあちゃんとのふれあいのなか、ウチナーグチの良さ、あたたかみを会話を通して教えられた、その体験をもとに「方言のぬくもり」と題して発表を行ない、県下二十一地区から選ばれた代表らと熱弁を競い、初出場にして見事優秀賞に輝やいた。

今回の受賞について育子さんは「なにか、まだ実感がわかないが、胸が一杯です。」と笑みをこぼしていた。

同校からの受賞に奥間校長は「よくやった。子供芸術発表会で行なった、ウチナーグチ芝居の「丘の一本松」の中で演じたアンマー役の体験が自信につながり、今回賞をいただくことが出来たと思う」と話された。

宮平地区PTA会長も「県大会での上位入賞は、こんどをふくめ二度目であり大変うれしい」と受賞を喜んでいた。

なお、子供達が演じ好評をはくした「丘の一本松」は、奥間校長が自から演出指導されたものです。

マチグワーを思わせる ガーデンバザー 多くの町民で賑わう

「いらっしゃいませ」、「安いですよ」と庁舎前の駐車場に出店がオープン、多くの買物客で賑わう。

嘉手納町社会福祉協議会と町婦人会共催によるガーデンバザーが十二月十一日（日）庁舎前の駐車場で催された。

バザーは、町社協の活動資金作りの一環として行なわれ、町内各種団体から善意の協力で集められた数々の品物が出品されていた。

午前十時、関係者が見守るなか奥間社協会長をはじめ奥島教育長、幸地町婦人会長、渡名喜母子寡婦会長らによってテープカットが行なわれ、バザーがオープンされた。

当日は、小春日和りを思わせるポカポカ陽気にさそわれてか、オープンと同時に家族連れや町民ら多勢の買物客が訪ずれ、福祉活動の資金づくりに協力していた。

子供へスケッチ板を買ってあげた、ある町民は、市販の価格より安く商品も新しいので買に来てよかったと、バザーでの買物に満足そうな顔で話していた。

出店も、食べ物、おもちゃ、ブティック、家庭用品など、各コーナーに分かれ、ハッピを着た関係者や各区婦人会が、訪ずれる買物客へ、いせいのいい声でよびかけをするなど、バザー広場は活気に満ちていた。

沖縄県の水ガメ ダムの水位さがる 節水に町民の協力を

十月初旬の台風二十四号の接近以来、沖縄県では雨らしい雨が少なく、県の水資源であるダムの貯水量等も著しく低下し、現在、国のダムから日量五万立方メートルの緊急補給を受けており、水事情はかなり厳しい状況にあります。

今後、降雨がなくこのままの状態が続けば、制限給水が行なわれることも予想されますので、町民皆様方の節水へのご協力をお願い致します。

なお、節水については、次の事項に注意しましょう。

(一) 入浴は湯ぶねのかわりにシャワーを使いましょう。

(二) 水道水による芝生や庭、道路等への散水はひかえましょう。

(三) 水道水による洗車はひかえましょう。

(四) 歯みがき、洗面等の場合は水の流しぱなしはやめましょう。

(五) 屋敷内水栓の水漏れは、すぐ修理させましょう。

また、道路上等で漏水を見つけましたら町役場水道課（六―四四三九、か六―一一一一（内線二六〇～二六二）まで、ご連絡下さい。

昭和六十四年度 町立保育所の園児募集

受付・一月十七日～二月十日

町役場では、昭和六十四年度の町立保育所入所児童の募集を左記要綱により、一月十七日から厚生課で受付けいたします。

募集人員

第一保育所（六〇人）
- ○一歳児＝六人
- ○二歳児＝十二人
- ○三歳児＝十六人
- ○四歳児以上＝二十六人

第二保育所（一二〇人）
- ○ゼロ歳児＝六人
- ○一歳児＝二十人
- ○二歳児＝三十四人
- ○三歳児＝三十六人
- ○四歳児以上＝二十四人

第三保育所（一二〇人）
- ○一歳児＝二十四人
- ○二歳児＝三十六人
- ○三歳児＝三十六人
- ○四歳児以上＝二十四人

受付期間

昭和六十四年一月十七日から二月十日まで。

入所基準

保育所へ入所できる児童は、その家庭が次のいずれかの事情にある場合です。しかし、次の一から五までの場合は、その家庭に母親以外の人が児童の保育ができる場合ま除かれます。

一、家庭外労働＝児童の母親が昼間家庭の外で仕事をし、児童の保育ができない場合。

二、家庭内労働＝児童の母親が昼間家庭で、日常の家事以外の仕事のため、児童の保育ができない場合。しかし、父親がその仕事に従事し使用人がいる家庭は除かれる。

三、母親のいない家庭＝母親の死亡、行方不明などの理由により母親が家庭にいない場合。

四、母親の出産等＝母親が出産前後であったり、病気や障害のため児童の保育ができない場合。

五、病人の看護等＝長期にわたる病人や心身に障害のある人が家庭にいるため、母親がその看護のため児童の保育ができない場合。

六、家庭の災害＝火災や風水害等により家庭を失ったり破損したため、その復旧のため児童の保育ができない場合。

受付場所

厚生課窓口（庁舎二階）

提出書類
- ○保育所入所申請書
- ○住民票謄本
- ○勤務証明書・病人等の診断書
- ○児童の健康診断書（内定後）
- ○税額証明書

昭和六十三年分源泉徴収票、所得確定申告書（写）、町民税・固定資産納税証明書

※ 詳細については厚生課（☎六―一一一一・内線三二二）に問い合わせて下さい。

かけ声も高く 子供らが数々の踊りや演奏を披露

第一回子供芸術発表会

「イヤサッサ、ハーイヤ」と、かけ声も高く、第一回子供芸術発表会が嘉手納町教育委員会主催により、十一月二十七日（日）午後二時から町民会館で催された。

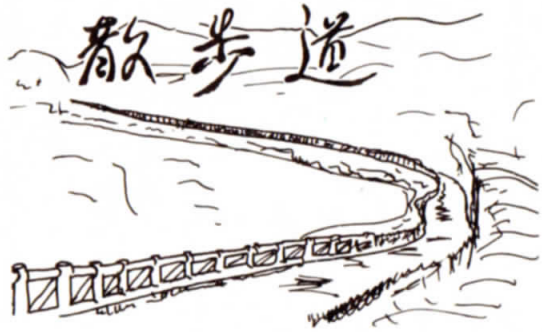
発表会は、町内の舞踊研究所や学校のクラブなどで練習をしている小・中学生を一堂にもうらし、子供たちに発表の場をとうして、創造性を高めることを目的に催され、今回が初めての企画である。

当日は、町内の各舞踊研究所や学校のクラブから多勢の子供たちが参加、日頃の練習成果を舞台いっぱいに繰りひろげていた。

また、会場の町民会館には、早くから、おじいちゃん、おばあちゃんや父母をはじめ多くの町民らが詰めかけ、孫や子供の舞踊や器楽演奏に大きな拍手を送っていた。

一方、観客席でも、家族の子供らの踊りになると、父母や兄弟が舞台近くまであゆみより、スナップ撮りにカメラのシャッターを切るなど、会場も熱気に包まれていた。

なかでも、屋良小学校が演ずるウチナーグチ劇の「丘の一本松」では、子供たちのユーモラスなしぐさと見事なウチナーグチが大いにうけ、観客の笑いを誘うなど、大変好評を博し、会場も盛りあがり、詰めかけた観客も、子供たちが演ずる芸能の数々を心ゆくまでたんのうしていた。



〝四十を過ぎたら〟

宮里喜信
㈱大興建設社長

去る十月上旬、日頃お世話になっている先輩が、突然奥さんとご一緒に会社に来られたが、残念乍ら不在でお会いできなかった。出先に会社から連絡があり、電話でお話しし、日頃のご無沙汰をお詫びしたのであるが、先輩は独特のソフトな口調で「相当たまったらしいね」と笑われた。社に帰ってから聞いたところによると、応待に出たK嬢を前にして「喜ちゃんもたまったんだな」の先輩の独り言に、剽軽なK嬢は実態との食違いに慌てたのか、「宮里は私から昼食代を借りることもあり、たまっているとは思えません」と言ったらしい。それで電話での含み笑いとなったのである。だが、このたまるには古いエピソードがある。

昭和三六年に生れた長女に障害が残った。複数の宗教から熱心に勧誘をうけたり、いろいろな事がありすぎて生活も様変りした感があった。私は娘に本土で治療をうけさせたい、という発想から無性に金がほしかった。檻の猛獣みたいな状態にある時、遠縁でハワイの養豚の成功者が帰省し、やる気があれば面倒をみるとの事で、小生のハワイ行が計画された。

そこで、琉大の講師であった先輩に計画を打明けて相談にのってもらった。押えられると反撥する小生の損な性格を、十分に熟知している先輩は、反論もなく合槌をうちながら話を聞いた。食事も終ったころ、ポツリと「喜ちゃん、四十歳を過ぎると金はたまるらしいよ、残って東京で修得したものを生かしては」と言われた。これには正直参った。途端に養豚業が成功するか、よしんば成功し順調に送金できても、障害児をかかえた女房が独りでやっていけるかどうか等々が頭をよぎった。また信頼する相談相手が原則的に反対した以上、小生も結論を出すのが筋と考え感謝しながらも、ヘソ曲りは「判りました。金持がそう言っても信じませんが、貧乏学者の先輩の言ですから信じて、沖縄で頑張ります」と結論を出した。本人はこれでもお礼の積りであった。

話は前後するが、昭和三一年五月六日、嘉手納村長喜友名朝順先生が上京されたのを機に、渋谷の京香に村出身学生十五名（女性二名）が集まって、先生が名付親になって嘉手納新生会をつくった。教育畑出身の先生は、「新生嘉手納を標榜し学生諸君は努力して貰いたい」と嘉手納新生会に対する期待を熱っぽく語られたのを、昨日のように鮮明に憶えている。

当時県学生は、大部分が出身高校別に野球チームを結成していた。高校のない嘉手納新生会は選手集めに苦労し、止むなくチーム名をそてつにしてからは、隣村からの加入も増え、そてつ会の名称が定着してしまったのである。また、試会場の確保が大変だったが、幸い先輩が東京大学で研究を続け乍ら、杉並高校の教員であった関係上、同校のグランド使用に無理して戴いた。途中で先輩も応援団から選手へと、宗旨変えをして入会し、名二塁手として活躍された。

あれから三十二年、人の出会いの不思議さ、素晴しさに驚くばかりである。さり気ない言葉が相手に大きな影響を与える場合があるが、先輩の一言で現在家族揃って仲よく暮していることを思えば、有難いことだ。勿論、養豚に精出しておれば富豪になったかも知れないが、これは仮定だ。唯四十は過ぎたがたまらないのである。

先輩は去る十一月三日、町の文化講演会で「沖縄の歴史と文化」を講演され、町民に深い感銘を与えた。終了後、拙宅でそてつ会の面々と昔話に興じられたが、その中の数名は、入学時に先輩「外間守善」に保証人になって戴き、在学中、誇りとイーチマリーをして無事卒業した者もいる。その晩は経済学の講義も質問もなかったが、全員が四十歳を過ぎているので、努力して先輩の期待に応えたい。

傷ついたリュウキュウヨシゴイ
屋宜さんの手で保護
子供の国へ届ける

県道七十四号線沿い屋良むる池近くの工事現場で重機オペレーターをしている屋宜さんが六日午後、昼食を終えて作業現場に行く途中、何やら道路沿の排水構でバタバタするものがあり、ゆっくり近ずいてみるといままで見たこともない茶褐色の体で、長い首に細長いするどい口ばしをした鳥がいた。

車の往来が激しい道路沿いの排水構は危険であるため、屋宜さんが保護しようと近ずくと、細長い口ばしでいかくをするので、上着をはずしおそるおそる小鳥をつかまえ抱きかかえてみると、左羽元が傷ついていた。

さっそく、傷ついた小鳥を現場事務所隣りの工具部屋へ放し、好物のカエルや小魚を与え、しばらく様子をみた。

最初のうちは、エサを食べようともせず室内を歩き回っていたが、しだいになれるにつれ、好物のカエルや小魚をついばみ、元気を取り戻していた。

小鳥の元気な様子にほっとした屋宜さんはじめ現場事務所の職員らは、さっそく、沖縄子供の国へ保護を依頼し、引き取ってもらった。

同園では、小鳥の保護に感謝するとともに、傷口の回復を見て川原へ放したいと話していた。

保護された鳥は、リュウキュウヨシゴイという名で、赤褐色をした南西諸島に棲む小形のサギ類で、水田、アシ原、湿地などに棲息し、単独、またはつがいで見られる。食べ物は、主に川魚やカエルなどを捕え、稲刈りの終った水田などでよく姿を見かけることがあり、「オー・オー」とうめくような声で鳴く。

寒風のなか
駅伝大会を通し
町民へ防火をアピール

嘉手納町消防本部主催による第四回防火駅伝大会が、十二月十一日午後兼久海浜公園内の勤労者体育センター横のスタート地点で行われた。

大会は、十一月二十六日～十二月二日までの一週間、全国一斉に展開される秋の火災予防運動と消防職員の心身の鍛練と強固な消防精神を練成し、あわせて町民の親善と防火思想を高めることを目的に、当日は、小雨まじりの寒風のなか、消防職・団員をはじめ町内各団体から十一チームが参加。

山口大会長（消防長）の激励あいさつや選手宣誓のあと、午後一時三十分ハチマキに防火啓発のタスキをかけた十一名の第一ランナーが一斉にスタート、五区間十四キロメートルの間で健脚が競われた＝**写真**。

一方、各チームのランナーが通過する区間の沿道では、多勢の町民らが拍手や声援を送り激励していた。

各選手も、それに応えるかのように必死で力走していたが、レース展開においては、練習量に勝る走ろう会が一区から五区まで終始安定した走りでリードを保ち、タイム五十五分四十四秒の一位でゴールイン、二位あらそいは、福地組と嘉手納署の間で激しいレットヒートを展開、結局、福地組が食いさがる嘉手納署をわずか十七秒の差でふり切り二位でゴールイン、次いで三位に嘉手納署の順となった。

また、大会も一区から五区間まで好記録が出るなど盛りあがり、消防駅伝も、すっかり師走の風物となっている。

各区大会の区間賞

一区（二キロメートル）照屋行雄（走ろう会）
タイム　七分四十三秒

二区（四キロメートル）屋宜盛善（走ろう会）
タイム　十五分五秒

三区（二キロメートル）比嘉正信（嘉手納署）
タイム　七分五十秒

四区（四キロメートル）当山進（比謝川電機）
タイム　十三分十一秒

五区（二キロメートル）仲田治市（走ろう会）
タイム　八分四秒

大会の順位は次のとおりです。

一位・走ろう会Aチーム、二位・福地組、三位・嘉手納署、四位・消防本部Bチーム、五位・比謝川電機、六位・消防団、七位・走ろう会Bチーム、八位・沖縄銀行、九位・互助会（町役場）、十位・走ろう会Cチーム、十一位・消防本部Aチーム。